

2020年3月27日

2020年度 学校関係者評価報告書

専修学校

海邦電子ビジネス専門学校

学校関係者評価委員

自己点検・自己評価実施委員会が作成した「平成31年度自己評価表」を基に学校関係者

評価を行いました。その結果を以下の通り報告いたします。

1. 2020年度学校関係者評価委員

(順不同、敬称略)

氏名(職名等)	委嘱理由等	出欠
宮城 光宏 (前美さと児童園施設長)	ボランティア、インターンシップ施設代表 ○学習状況、ボランティア実習状況	出席
比嘉 昌哉 (沖縄国際大学教授)	大学教育関係代表 ○学習状況	出席
元山 和仁 (元沖縄女子短期大学教授)	大学教育関係代表 ○学習状況	出席
伊集 洋子 (専門学校講師)	大学教育関係代表 ○学習状況	出席
平良 修 (税理士)	地域住民代表 ○学校運営状況	出席
仲村 実 (有限会社 三和工業)	卒業生代表 ○学校運営状況	出席
宮平 永義 (保護者代表)	保護者代表 ○学校運営状況	欠席
真栄城 玄静	海邦電子ビジネス専門学校 ○校長	出席
真栄城 玄亮	海邦電子ビジネス専門学校 ○副校長	出席

海邦電子ビジネス専門学校の 自己点検・評価・報告書に対するコメント

- 1、教育理念はしっかりと設定されている。①明朗、②誠実
③実力の3点が明確である。
- 2、教育目標は、①経理専攻科、②公務員専攻科、③医
療専攻科、④ビジネスワーク科等しっかりと設定されている。
- 3、学校の教育理念、学科の教育目的、育成人材が以下
の10項目でしっかりと点検、評価され、改善案がしめされ
ている。

- (1) 理念・目的・育成人材像はイ、ロ、ハはほぼ適切である。
- (2) 学校運営については、イ、ニ、ホは適切であり、ロ、トがほぼ適切、ハ、へに
改善が要するようである。
- (3) 教育活動については、イ、ハ、ホ、へ、チ、ルは適切であり、ロ、ト、リ、ヌに
ほぼ適切、ニに改善の要がある。
- (4) 学修成果については、イ、ロは適切であり、ニ、ホがほぼ適切、ハに改善
の要が見られる。
- (5) 学生支援は、イ、ロ、ハ、へは適切であり、ホ、ト、チ、リはほぼ適切、ニに
改善の要が見られる。
- (6) 教育環境はロ、ハは適切、イはほぼ適切である。
- (7) 学生の受入場集は、イ、ロ、ハは適切、ニはほぼ適切である。
- (8) 財務は、イ、ハ、ニは適切、ロはほぼ適切である。
- (9) 法令等の遵守はイ、ロ、ハ、ニともに適切である。
- (10) 社会貢献・地域貢献は、イ、ロ、ハともに適切である。

以上

本学の教育理念・学科の教育目的・育成人材等は以下の通りである。

- ①現状：本学の「理念・目的・育成人材像」は学生、保護者に周知されている。ただし、「各学科の教育目的および育成人材像」を定め、関連業界に周知することがやや適切でない。各種検定の合格率は80%以上で就職実績も97%以上を確立している。
- ②課題：関連業界に、本学の各学科の教育目的および育成人材像の徹底していく必要がある。
- ③改善：各種検定の合格率を90%以上にし、就職実績を100%とし、その実績を学生・父母、関連業界に周知徹底していく必要がある。

本学の学校運営の現状・課題・改善は以下の通りである。

- ①現状：本学の①「運営方針」、②「教職員の募集・採用・昇格」
③「教務・事務・財務の組織整備等の意思決定システム」
等は適切に実施されている。

- ②課題：①「運営組織や意思決定システム」、②「事務職員の意欲、
資質の向上を図るための方策」、③「人事・給与に関する制
度」、④「教育活動に関する情報公開等も適切になされてい
るとは言い難い。

- ③改善：本学の改善目標は、①「退学率の低減」、②「卒業後の
キャリア形成への適応性・効果の把握」、③「卒業生の専
攻分野における社会的評価の把握」等を適切に実施して
いくことである。

本学の教育活動の現状は以下の通りである。

- ①現状：①「教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針」
②「学科等のカリキュラム」、③「授業評価の実施・評価体制」
④「成績評価・単位認定の基準」、⑤「人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員」、⑥「成績評価の単位認定・進級・卒業判定の基準」は適切である。
- ②課題：本学の教育活動の課題として、以下があげられる。
①「教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた教育機関としての従業年限に対応した教育到達レベルから学習時間の確保」、②「資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な」位置づけ」、③「新人職員の能力開発のための研修」、④「授業がシラバスに基づいて展開されている」等は適切さにやや欠ける。
- ③改善：以上、①、②、③、④の課題の改善を図ると共に、「キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等の実施を図る必要がある。

本学の学修成果は以下の通りである。

- ①現状：「就職率の向上」及び「資格取得率の向上」は両方とも適切に図られていると言える。

- ②課題：「退学率の低減」、「卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への適応性・効果の把握」、「卒業生の専攻分野における社会的評価の把握」等は適切とは言えない。

- ③改善：本学の改善策としては、①「運営組織や意思決定システム」を整備拡充し、有効に機能させていくこと、②「事務職員の意欲・資質向上を図るための方策」を早急に講じ、③「人事給与に関する制度」の整備・拡充を図り、④「教育活動に関する情報公開」の適切な実施等に向けた鋭意努力していく。

本学の学生支援に対する評価は以下の通りである。

- ①現状：①「進路・就職」、②「学生相談」、③「経済的側面」、
④「生活環境の支援」等はクラス担任だけでなく進路部の
先生方によって行われている。
- ②課題：①「健康管理を担う組織体制」、②「課外活動」、③「保護
者との連携」、④「卒業生への支援体制」、⑤「学生の課外
活動」等へ支援体制は十分とは言えない。
- ③改善：本学の学生支援体制の改善で最も重視すべきは、①「学生
の健康管理を担う組織体制」づくりであり、次に「課外活動」
「保護者との連携」、「卒業生への支援体制」、「学生の課
外活動」等の適切化を図ることである。

本学の教育環境は以下の通りである。

①現状：①「防火に対する体制」、②「学生専用駐車場」等は適切である。

②課題：「施設・設備」は教育上の必要性に対する整備がほぼ適切である。

③改善：「施設・設備」について、学生へのアンケートを早急に実施し、必要な整備をしていく必要がある。

本学の学生の受入れ募集は以下の通りである。

- ①現状：①「学生の募集活動」、②「教育成果の適正な伝達」、
③「学納金」は適切である。

- ②課題：①「入学後のミスマッチ」を防止するためのオープンキャンパス
の開催、体験授業の実施等が十分とは言えない。

- ③改善：「オープンキャンパス」、「体験授業」の実施について学内で
検討し、適切に実施できるように努力していく必要がある。
また、学生の受入れ数を努力して増加させる必要がある。

本学の財務については以下の通りである。

- ①現状：①「中長期的財務基盤」、②「財務についての会計監査」
③「財務情報公開」等は安定し、適切に実施され、体制整備が適切である。

- ②課題：①「予算・収支計画」の有効性及び妥当性がやや不適切
と言える。

- ③改善：本学の改善点としては、①「予算・収支計画」の有効性及
び妥当性を高めていく努力が求められている。

本学の法令の遵守は以下の通りである。

- ①現状：①「法令・専修学校設置基準の遵守と適切な運営」、
②「個人情報の保護対策」、③「自己評価結果の公表」
等は適切に実施されている。

- ②課題：現時点特に問題は無いが、①「校舎の老朽化」、②「学生
数の増加への呼び水」等に対応が必要である。

- ③改善：校舎の10年以内の新築等を実施していく必要があろう。
また、法令・専修学校設置基準等に変更が生じる。

本学の社会貢献・地域貢献は以下の通りである。

①現状：①「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献」
②「学生のボランティア活動の奨励支援」、③「地域に対する
公開講座・教育訓練（公共職業訓練等）の受託等の積極
的実施」等は適切に行われている。

②課題：特に無し

③改善：ボランティア活動は自主性を尊重して実施し、地域に根ざし
た教育機関として、公開講座、教育訓練の受託等を積極的に
実施していくよう鋭意努力する必要がある。